

平成25年度「地域イノベーション戦略推進会議（第1回）」の開催について

1 開催概要

「イノベーション立県」に向けた取組みを加速するため、昨年8月に産業界・大学・金融機関・行政のトップを構成メンバーに設置した「地域イノベーション戦略推進会議」の平成25年度第1回会議を開催した。

この度の会議では、産学金官が渾然一体となったイノベーション創出等について、意見・情報交換等を行った。

○ 日 時：平成25年6月6日（木） 13時～15時

○ 会 場：県庁北館2階 第1会議室

○ メンバー： (五十音順・敬称略)

分野	所属	職名	氏名
産業	株式会社アスカネット	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	福田 幸雄
	カイハラ株式会社	代表取締役社長	貝原 潤司
	コベルコ建機株式会社	代表取締役社長	藤岡 純 [欠席]
	シャープ株式会社	執行役員 電子デバイス事業本部長	江川 龍太郎
	マツダ株式会社	代表取締役 副社長執行役員	金井 誠太
大学	広島大学	学 長	浅原 利正
金融	株式会社広島銀行	代表取締役頭取（代理：専務取締役）	池田 晃治 （代理：蔵田和樹）
行政	広島県	知 事	湯崎 英彦
ファシリテーター	広島経済大学	教授 キャリアセンター部長	川村 健一

2 主な意見の内容

- 技術をオープンにし、多くの人を巻き込むことによって新たな価値が生まれる。
- 産学連携は、企業から大学にアイデアを持ち込む方が具体性があるのではないかと。
- 地域の学校で、学生として学んだことと社会（企業）がリンクしなくなっている。
- 1つのアイデアだけでイノベーションはできないが、裾野が広いシーズがあることが必要。
- イノベーションにとって産学連携が重要なのは、お互いが枠を越えた新しい視点を見ることができること。
- 企業等から大学への資金還流の仕組みを考えてみるのも必要なのではないかと。
- 様々な人が集まる“場”は必要であるが、課題を共有するだけで結論を出すところまでいかないことが多い。起承転結の“結”のところまで持っていく仕組みが必要ではないかと。
- 複数の組織で、様々な産学連携への取組が行われているが、目指すべき方向性を共有する必要があるのではないかと。

3 今後の開催日程

【第2回】平成25年9月（予定）